

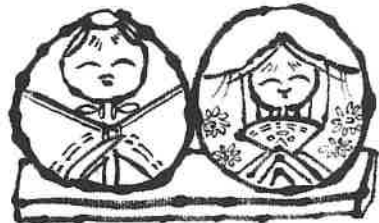
深川地区社会福祉協議会
広報部会

深川社協だより **ふかわ** 第54号(2020.3.10)の記事訂正について

平素より深川地区社会福祉協議会に対しましてご支援ご協力いただきありがとうございます。この度社協だより「ふかわ」第54号ができましたので、ぜひ目を通していただきたく、よろしくお願ひいたします。

さて記事の中で2か所訂正がありますのでお知らせいたします。申し訳ありませんが、よろしくお願ひいたします。

- ①1 ページ目 「広島市社協研修会の報告」の2行目
参加者(31名) → 参加者(312名)に訂正をしてください。
- ②3 ページ目 最下段の台風19号災害義援金s
12万3000円 → 22万3000円に訂正してください。



深川社協だより

ふかわ

第54号
2020.3.10

カットは河野香代美さん（1丁目）

■編集発行 深川地区社会福祉協議会広報部会

■発行人 向井文武



深川小学校の朝の登校を見守る竜門さん（4丁目）と荒川さん（5丁目）



深川地区社会福祉協議会

会長 向井文武

広島市社協研修会の報告

去る二月六日、広島市一三九地区社協会長・地区福祉推進委員の参加者（三十一名）合同研修会議が行われました。

■研修内容

- (1) 広島市地域共生社会実現計画についての説明
- (2) 実践報告 安学区社協
- (3) 講演 講師は村上須賀子（広島文化学園教授）

「共に生きていくための、つなげる力」

「地域共生社会実現計画」

広島市が昨年（令和元年八月）に策定された地域共生計画は「すべての人に居場所・役割があり、多様性を認めあうまちをつくる」を基本理念としたもので、次の項目が柱である。

* 在宅生活を可能にする（公助）整備

* 地域住民等と支援関係機関による包括的な支援体制の構築

* 民間との連携・協働による地域福祉の推進

* 安心して暮らすことができる生活環境の整備

市社協も、民間の力で市民・住民が目指す住民主体のまちの目標を実現する為の方策・提案を盛り込み、より多くの団体・住民・市民と共に地域福祉を推進していく為の取組み・体制づくりを行う。

体制づくりとして、地域の住民に身近な団体である地区社協が中心となって、住民の声を集め専門機関につなぐ役割をする。また「支え手」や「受け手」という関係を越えた地域のあらゆる住民に役割を持ってもらい、支えあいながら自分らしく活躍することで、共生社会を創る取組みをする。以上の研修内容でありました。

皆さんで地域のこどもたちを
見守りましょう

安佐北区交通安全運動推進隊

荒川 忠 臣

(深川学区老人クラブ連合会会長)

朝夕の登下校の際、聞こえてくる子ども達の元気な声に、私たちも『今日も元気で』と子ども達から元気をもらい、朝の気持ちのいい挨拶を掛け合いながら、又、笑顔を見るのを楽しみにして送り迎えを行っています。

出来うれば校外補導の一環になればなーと思いを馳せながら活動をしています。又、学区内各地域で危険な場所に、見守り隊を編成され積極的に参加し行動されておられる地域もあります。

最近の道路事情も、特に通勤、通学の時間帯は目を覆う場面にしばしばあります。地域の子ども達を交通事故、事件から守らなければなりません。地域の宝として育て上げ、次世代の担い手として成長してもらいたいものです。

特に高齢者の余暇を有意義に活用し、自分達の健康管理にも役立て、更に健康寿命を延ばしたいのです。『朝起きは三文の得』を信じて。



「第33回高陽地区青少年意見発表大会」
子どもたちの心を感じて

深川地区青少年健全育成連絡協議会

会長 西村 牧生

11月11日(日)に高陽公民館で高陽地区青少年健全育成連絡協議会、安佐北区青少年健全育成事業実行委員会の主催で『第33回高陽地区青少年意見発表大会』が開かれました。

高陽地区内の小・中学校の26名の児童生徒の皆さんによる発表内容の多彩さに感動しました。

自分の感じたこと、自分の経験から学んだこと、自分の思いを4分間にまとめ、自分の言葉で力強く堂々と発表してくれました。運動会で組み体操や応援団を、終えての達成感から、仲間と共に取り組んだ連帯感を感じ、心をひとつにするこの大切さ、すばらしさを学ぶことができたという発表をはじめ、あいさつは人と人がつながるもので、けんかやいじめになる前にはやりをもつて声かけをしていきたい。自分のまわりには家族、友だち以外にも、見守り隊など、多くの人がやさしく声かけをしてくれているという感謝の思いを発表した人も多くいました。

さらに身の周りのゴミのポイ捨て、あおり運転、自



愛のともしば

深川地区社会福祉協議会に対し、福祉事業の活動にお役立て下さいと、次の方々から香典返し他のご厚志をお寄せいただきました。

皆様の善意に厚くお礼申し上げます。

(令和元年八月〜十二月)

- 川本勝己 深川五丁目
- 馬場賀津雄 深川五丁目
- 山田利夫 深川四丁目
- 川原春江 深川四丁目
- 中 正司 深川六丁目
- 杉村三智子 深川一丁目
- 近藤昭登 深川八丁目
- 匿名一名

(受付順 敬称略)

香典・見舞返し・その他皆様の善意の募金をお寄せ下さい。お寄せいただいた募金は深川地区社会福祉事業の活動に役立てさせていただきます。

【深川地区社会福祉協議会】

然災害、スマホ、SNSなどについて自分なりの意見を上手にまとめて発表した人も目立ちました。全体を通じて、小・中学校で取り組まれている「こ」とばの力をつける」指導が、子ども達も自信を持って大きな声で発表する姿から感じとれました。

深川の人を たずねて

埴田ヤス子さん（九十三歳）

深川一丁目（下庄）

2月の「農談会」を休まれている。会場は目の前の自治会館なのに。お聞きすると、にこにこ笑いながら「忘れてた」と一言、安心しました。

ご紹介するのは一丁目（下庄）にお住まいの埴田ヤス子さん、今年8月で93歳になられます。とにかくお元気な埴田さんです。

高田郡吉田町の生まれ。23歳で深川へ。下庄自治会館の真ん前にある素敵なログハウスがお住まいです。長男ご夫婦との3人暮らし。耳が少し遠くなったとのことで、長男さんも同席のインタビューとなりました。

深川に来た頃は、年に何回も浸水騒ぎがあり大変だったとのこと。平成5年7月に起こった奥尻島の津波被害のテレビ放送を見て、多くの家屋が流され壊れる中、ログハウスだけが壊れずに建っていたのを見られて、この家にしようと思われたいそうです。建てたのはフィンランド様式のログハウスとのことで、丸太組みではなく、工場でカットされた角材を組んで作られたログハウスです。ご本人は「窓が二重ガラスになっていて結露はないし、暖かいよ」と、いたって満足の様子でした。

若い頃から裁縫や編み物が得意で、作業着やエプロンを作っていました。それが評判になり、学生服の「いとや」や、ユニフォームの「岩城」というお店にコックコート・エプロン等を作って納めていたのよ、と懐かしそうに話されました。最

盛期には軽量鉄骨の作業場を作り、ミシンを2台置いて、近所の方々と結構なお小遣いになったと話されました。（現在も「いとや」は本通りにお店があり、「岩城」は西平塚町でイワキユニフォームという名前で現存しています）

ニュータウンが出来てからは、近くに働き場所が出来たので、縫製の仕事は一段落。野菜をニュータウンで販売されていたこともあったそうです。ネギを荷車いっぱい積んで行き、全部売れると3万円くらいになったのよ、とまた嬉しそうに話していただきました。

野菜作りがとってもお上手な埴田さん、「農談会」で、こうしたらうまく出来た、今年は何々のできが悪かったけど、何が悪かったのかしら、と元気に質問される姿には脱帽です。昨夏、プロッコリーの後にナスを植えるときよく出来るという話を実践され、ナスが取れ過ぎてご近所に配って歩くのに苦労したと、また笑顔で話していただけました。

鹿除けのネットに引つ掛かって転ばれて、手を怪我されたとのこと、気を付けて下さいね。どんなお話も楽しい思い出として笑ってお話をしていただけました。これからお元気なで、周りの方々に美味しい野菜と一緒に「幸せ」を配り続けていただけたらと、願っています。ありがとうございます。



←写真右が埴田ヤス子さん、左は長男さん

聞き手 松田和夫（下庄）

深川社協からのお知らせ

令和元年度・安佐北区社会福祉大会において、永年にわたり地域福祉活動に貢献された功労者として、深川地区で左記の六名の方々が安佐北区社会福祉協議会会長より表彰されました。

安佐北区社会福祉協議会会長表彰

社会福祉功労者

- 山口 裕子 (深川七丁目)
 - 増井 美穂 (深川七丁目)
 - 大下 秀明 (深川一丁目)
 - 大瀬戸紫苑子 (深川一丁目)
 - 東 美貴子 (深川二丁目)
 - 山田 雄二 (深川三丁目)
- (順不同・敬称略)

赤い羽根共同募金のお知らせ

- 深川地区共同募金 六十九万六千円
- 台風19号災害義援金 十二万三千円

右金額を安佐北区社協を通じて募金会へ送金いたしました。

皆様のご協力に心より感謝いたします。

深川地区社会福祉協議会

いきいきサロン便り

みささの会 (上庄・下庄・尾和)

下庄自治会長 松田和夫

「いきいきサロン」は若返りの会？

「3回写真撮ります、20才若返ってください。」前に並んだ方々よりも、会場の皆さんから爆笑が。例月は誕生日をお迎えになるお一人お一人に、その場で花束を渡すのですが、今月は「いきいきサロン便り」の写真撮影のため、前に出ていただいて花束贈呈の後、記念写真を撮りました。1月生まれの方は9名。3人欠席して、6名の方の記念写真です。

撮影の後、お正月にちなんで干支にちなんだゲームを。8人1組になって5チーム対抗戦、包括支援センターの方と各チーム代表がじゃんけん。中の見えない袋から12支が1種類ずつ描かれたカードを、勝てば2枚、負ければ引けません。12種類の干支が揃いません。3チームが接戦。最後の1種類が特に揃わず盛上がりします。ルール変更して、負けても1枚引けるルールにして、やっと12種類揃ったチームが優勝。ゲーム中盤はサロン中が一気に還暦分若返った1月の「みささの会」でした



広島市「いきいき活動

ポイント

しっかりと活用して
いますか

70歳以上の高齢者の皆さんが、自分の健康づくりや地域支援のために行う活動を支えるもので、活動した実績に応じてポイントが付き、そのポイントの数に応じて奨励金が支給されます。各自治会で実施している「清掃活動」や子どもの登下校の見守り、そして深川地区3ヶ所で行っている「いきいきサロン」への参加、また「健康体操教室」など、見渡せばいくらかでもあります。安佐北区スポーツセンターでは「お手軽ウォーキング」「モーニングストレッチ」など、そして公民館で行われている催しものや事業への参加はポイント対象となるものがたくさんあります。まず、一步を踏み出しませんか。

今回から「深川の昔」を地域ごとにお伝えします
まずは「奥迫地区」から紹介してまいります

奥迫編く弘法大師伝説く

奥迫(現奥迫)の地は、古代の銅鐸などが出土した木の宗山のふもとにあり、古くから開けていたと考えられます。奥迫の道は、現在は単に東区福田への抜け道ですが、昔は深川から西国道(現山陽道)へと続く出入り口として重要な役割を担っていたと思われます。

山陽道から来る人や物資はこの奥迫の地から出入りしていたのでしょうか。従って約千三百年前に、院内に建立された「薬師寺」の開基と伝わる弘法大師もこの道を通って院内に入られたと思われる、大師の伝説が奥迫にいくつかわわっていることもうなずけます。

伝説には「わくぐり岩(わくぐり岩)・蚊帳いらず」などあり。この二話にまつわる岩や井戸跡が今も残っていて見ることが出来ます。また「わくぐり岩」は、日本民話百選に選ばれ、日本むかしばなしとして全国的に名が知られている伝説で、その岩は奥迫の「いこいの森」駐車場の近くにあり



深川郷土史研究会 升尾成美